

【 大田区 】 胃がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく胃がん検診の実施状況>

対象年齢（50歳以上：隔年）	している
検査方法（胃部X線または内視鏡検査）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	195,824	205,092	400,916
【東京都調査による対象者率(区部)：58.2%】			
実際の受診者数	7,206	8,609	15,815

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	胃部X線(35～39歳)
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	6.3%	7.2%	6.8%
要精検率	11%以下	14.6%	10.5%	12.4%
精検受診率	70%以上	91.4%	94.6%	92.9%
精検未把握率	10%以下	4.9%	2.7%	3.8%
精検未受診率	20%以下	3.7%	2.8%	3.3%
陽性反応適中度	1.0%以上	2.0%	0.9%	1.5%
がん発見率	0.11%以上	0.29%	0.09%	0.18%

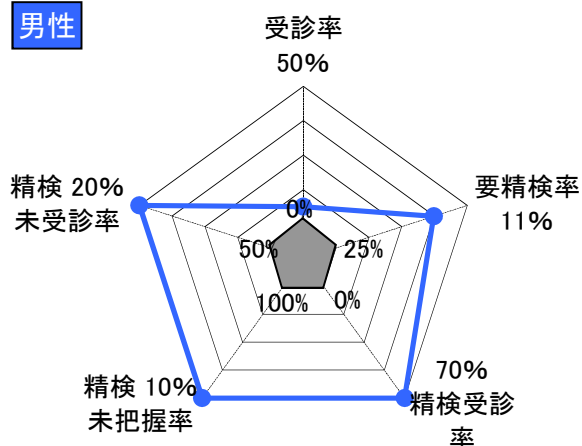
プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

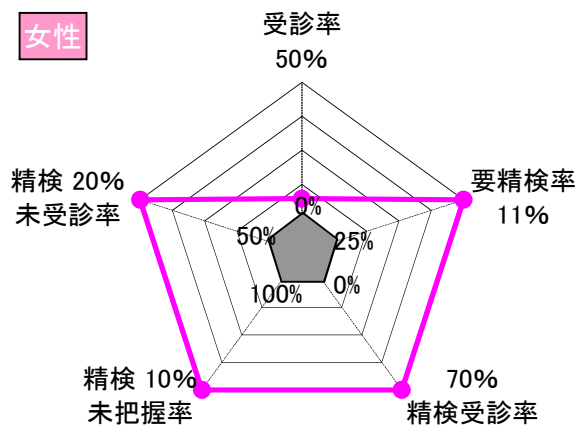
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

【 大田区 】 肺がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく肺がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（胸部X線検査及び喀痰細胞診）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	195,824	205,092	400,916
【東京都調査による対象者率(区部)：65.5%】			
実際の受診者数	12,515	16,473	28,988

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	9.8%	12.3%	11.0%
要精検率	3%以下	5.2%	3.7%	4.3%
精検受診率	70%以上	90.4%	93.3%	91.8%
精検未把握率	10%以下	3.2%	1.8%	2.5%
精検未受診率	20%以下	6.3%	4.9%	5.6%
陽性反応適中度	1.3%以上	2.8%	1.5%	2.1%
がん発見率	0.03%以上	0.14%	0.05%	0.09%

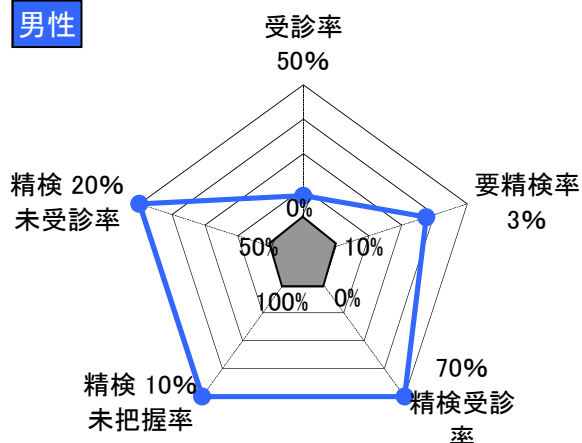
プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

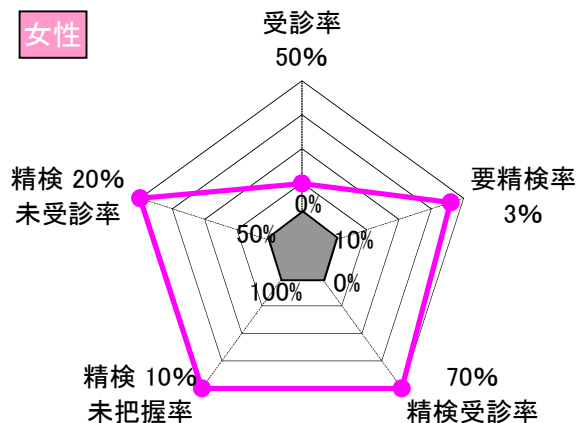
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

【大田区】大腸がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（便潜血検査（二日法））	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	195,824	205,092	400,916
【東京都調査による対象者率（区部）：62.3%】			
実際の受診者数	15,176	24,335	39,511

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上（精検含む）体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標（プロセス指標）>

	あるべき値 （許容値等）	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	12.4%	19.0%	15.8%
要精検率	7%以下	8.8%	5.8%	7.0%
精検受診率	70%以上	84.4%	83.9%	84.1%
精検未把握率	10%以下	7.3%	6.2%	6.7%
精検未受診率	20%以下	8.3%	9.9%	9.2%
陽性反応適中度	1.9%以上	6.2%	5.9%	6.1%
がん発見率	0.13%以上	0.55%	0.35%	0.42%

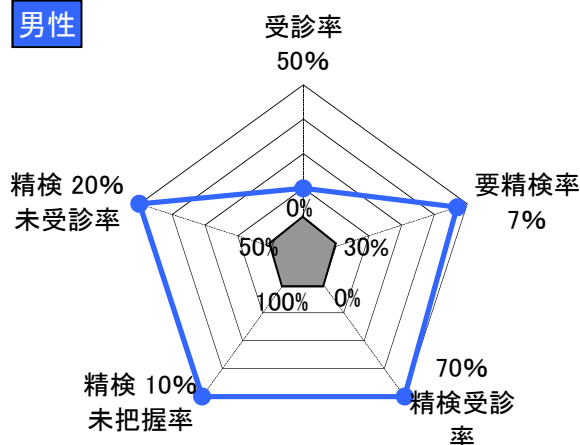
プロセス指標についての解説

リンク先：「とうきょう健康ステーション」>

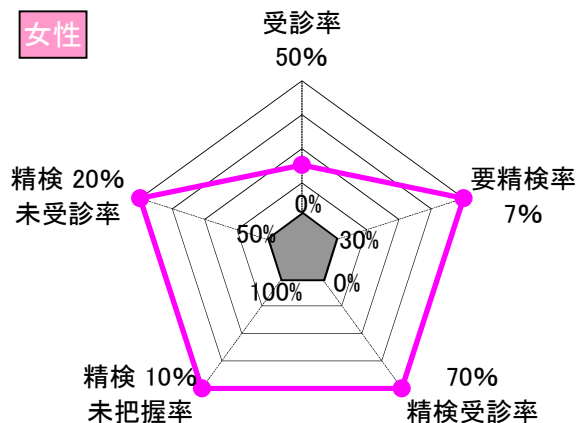
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

【 大田区 】 子宮頸がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況>

対象年齢（20歳以上：隔年）	毎年
検査方法（細胞診）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		303,078	
【東京都調査による対象者率(区部)：66.3%】			
実際の受診者数		26,543	

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	間隔について毎年実施
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		19.6%	
要精検率	1.4%以下		2.8%	
精検受診率	70%以上		78.9%	
精検未把握率	10%以下		17.9%	
精検未受診率	20%以下		3.2%	
陽性反応適中度	4.0%以上		0.7%	
がん発見率	0.05%以上		0.02%	

プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

【評価結果】

<受診率>

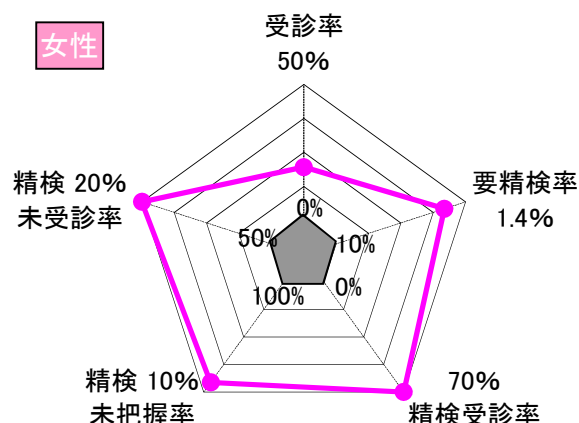
『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検未把握率>

精検未把握率が許容値達成まであと一步です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。



【 大田区 】 乳がん検診 プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく乳がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上：隔年）	毎年
検査方法（マンモグラフィ）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		205,092	
【東京都調査による対象者率(区部)：66.3%】			
実際の受診者数		15,151	

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	間隔について毎年実施
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		16.5%	
要精検率	11%以下		11.3%	
精検受診率	80%以上		95.8%	
精検未把握率	10%以下		2.9%	
精検未受診率	10%以下		1.3%	
陽性反応適中度	2.5%以上		4.2%	
がん発見率	0.23%以上		0.48%	

プロセス指標についての解説

リンク先：「とうきょう健康ステーション」>

「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

